

ありがとうは、すてきだな

もりたに
森谷 蓮

「こうえんであそぼう。」

とパパがいったとき、ぼくはすべりだいやブランコであそぼうとおもいました。

パパが、ターザンロープをみつめました。

「アーアー。」

とすべりました。いつかいめは、すぐにこけました。にかいめは、パパといっしょにすべりました。さんかいめは、ひとりでした。さいごまでいって、おっこちてしまいました。ぼくのひだりては、まがつていました。

「たすけてえ。」

とさげびました。

すぐにびょういんへいくと、せんせい、

「こっせつだな。」

とおしえてくれました。ぼくは、いたくてがまんできませんでした。ちゅうしゃをして、ねむっているあいだに、しゅじゅつをしました。

ぼくのはじめてのなつやすみは、ゆういんからスタートしました。ぼくは、かなしくなりました。プールでおよいだり、ホテルやおんせんにいったりしたいなあとおもっていたなつやすみがだいなしになってしまいました。

ベッドのうえで、ぼくはひだりてをつつたままです。ひとりでは、トイレにいきません。ごはんもたべられません。ひとりぼつちだとなにもできません。それで、ママとおばあちゃん、パパがいつもいっしょにいてくれました。かたてしかつかえないぼくは、ベッドのうえでほんをよんだりペンきょうをしたり、おしゃべりをしたりしました。いつもより、いちにちがながくなつた気がします。ともだちにもあえないから、さびしくなるときもありました。ぼくがみんなをひとりじめしているあいだ、おとうとは、おうちでおりこうにしていたそうです。ぼくは、もうしわけのないなあとおもいました。ぼくのころのなかは、「ありがとう」のきもちでいっぱいになりました。

ここのかかんのにゆういんはちよつとかなしかつたけど、みんながおせわしてくれたら、やさしくしてくれたりしたので、ちよつとだけうれしいおもいにかかりました。ぼくのまわりには、やさしいひとがいっぱいいるのがわかりました。ぼくは、こころのなかでみんなに、

「ありがとう。」

といっぱいしました。「ありがとう」がいっぱいは、すてきだなとおもいました。これからも、「ありがとう」をいっぱいいいたいです。